**第4課.イエス様の３大職務 (2018/07/29)**

◎賛美(一同) : 韓日88番、韓日102番

◎信仰告白(一同) :使徒信条　　◎御言葉朗読(一同) :ルカの福音書 4章18-19節

◎本文朗読　◎主の祈り(一同) : 最後に

◎ 今日のマナ

旧約には祭司長、預言者、王という油注ぎを受ける3つの職分が存在しました。祭司長は人間を代表して神様の前に出ていけにえを捧げ、預言者は神様のみこころを民たちに伝達し、王は神様のみことばに従って民たちを治めました。イエス様は油注がれた者、すなわちキリストとしてこの３つの職分の全てを完全に遂行されました。

**1. 預言者であるイエス様**

 旧約で預言者は神様のみことばを受けて民たちに伝達する役割をしました。モーセは早くに神様が‘私のような預言者’ひとりを起こされると言いましたが(申命記18：15)、イエス様が来られることで、そのみことばが成就されました(ヨハネ1：45、使徒3：22)。預言者として来られたイエス様は律法学者たちよりも、より権威を持ってみことばを伝えられ、多くの人々に多くの感動を与えました(マタイ7：28-29)。

イエス様が伝えられたみことばは旧約の律法を超える律法の完成でした。マタイの福音書５章１７節は“わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思ってはなりません。廃棄するためにではなく、成就するために来たのです。”と言います。従ってイエス様は完全に神様の観点で律法を解釈されました。復讐をせずに敵さえも愛しなさいと言われ(マタイ5：38-48)、自分を振り返らないで他の人を批判する態度を咎め(マタイ7：1-5)、神様の愛と隣人の愛が一番目の戒めであることを強調されました(マタイ22：34-40)。またイエス様は未来のことを預言されました。終わりの時のしるしやイエス様の再臨、聖徒たちと永遠に共におられる助け主、聖霊様について語られました(マタイ24：3-13.マルコ13：3-27、ルカ21：7-28、ヨハネ14：16)。

何よりもイエス様はキリストとして来られた預言者として旧約の預言者たちを超えるお方でした。旧約の預言者たちが神様の救いを予告する者であったならば、イエス様は神様の救いを完成されたお方でした。だからイエス様は弟子たちにご自分を“バプテスマのヨハネ、預言者、エレミヤ”ではない‘キリストであり神様の御子’であると教えられました(マタイ16：14-17)。イエス様は主の道を備える方ではなく主、それ自体であられました。だからイエス様のみことばが宣べ伝えられ(ルカ8：1)、イエス様の性質が臨み(ローマ14：17)、イエス様の力が働く所は神の国になります(マタイ12：28)。

**2. 王であるイエス様**

 旧約の王は神様から油注ぎを受けイスラエルを治めました。ですが彼らに重要なことは必ずみことばに従って民たちを治めなくてはならないことでした(申命記17：18-20)。しかしイスラエルの王たちはみことばに完全に従順することはできず、結局北王国と南王国は滅びてしまいました。以降、イスラエルの民たちは彼らを回復させ治める油注がれた王を待ち望み、ベツレヘムのどこかの馬小屋でイエス様が生まれることで彼らの望みが成就されました。

しかしイエス様は普通のイスラエルの人々が期待する王の姿を見せられませんでした。イエス様は当時イスラエルを治めていたローマを批判されず、彼らが下した死刑宣告に何の抵抗もされないまま、十字架で息を引き取られました。しかしイエス様の十字架の死は敗北ではなく勝利でした。なぜならイエス様の目的はイスラエルをローマから政治的に解放することではなく、アダムの堕落以降サタンの束縛の下にいる全ての人類を罪から解放することであったからです。イエス様は十字架で死なれよみがえられることで、死の権勢を完全に無力化させ(Ⅰコリント15：55-57)、全ての名にまさる御名を得られました(エペソ1：21)。イエス様は世の王を超えて、神の国の王になられました。

十字架で死なれよみがえられたイエス様が私たちの王です。王であるイエス様は神様の御座の右に座っておられ(マルコ16：19)、万物の上に教会のかしらとなられます(エペソ1：22)。そしてイエス様を王として迎え入れた全ての場所は聖霊様が臨在される神様の国となり(マタイ18：20)、イエス様が再び来られる時、神の国は完成されます(Ⅰテサロニケ4：16-17)。私たちすべてはイエス様が治められる神の国の民です。

**3. 祭司長であるイエス様**

旧約で祭司長は民を信仰へと導き、神様のみこころを伝達し、いけにえを通して神様と民の間をつなげる役割をしました。しかし人間の祭司長は神様の前では完全にはなれませんでした。なぜならその人も罪の下のいる人間であるので自分の罪をきよめなければならず、死を避けることはできなかったからです(へブル5：3)。そして彼らは毎年動物の血をたずさえて、いけにえを捧げなくてはいけないという限界がありました(へブル9：25)。

しかし私たちの大祭司長として来られたイエス様は多くの人間の祭司長のように罪をきよめる必要がなく、死ぬことがなく、永遠に生きておられます(へブル9：24)。そして有限で何度も捧げなくてはいけない動物ではない、罪のないご自身の体をいけにえとして捧げ、完全で永遠の贖いを一度で成されました(へブル9：12)。だからイエス様は再びいけにえを捧げる必要がなく(へブル10：18)、神様に出会おうとする全てのものはいつでも自らいけにえとなられ、永遠の祭司長であるイエス様に頼って神様の前に出て行くことができるようになりました(へブル10:19-22)。聖書はこのような大祭司長であるイエス様を永遠に存在するメルキセデクの位に等しい大祭司長だと言っています(へブル6：20、詩編110：4)

イエス様は人となられて私たちと同じように試みを受けられましたが罪はありません。したがって私たちを理解され、抱きしめてくださいます(へブル4：15-16)。私たちがどのような状況に置かれようとも大祭司長であるイエス様に頼り大胆に神様の前に進み出ましょう。

◎ マナの要約

 <預言者であるイエス様>

1. イエス様は預言者として来られ民たちにみことばを宣べ伝えられました。

2. イエス様のみことばは律法の完成でした。

3. イエス様は神の国を完成されました。

<王であるイエス様>

1. イエス様はイスラエルが待っていた王でした。

2. イエス様は全人類を罪から解放させた救い主です。

3.　イエス様は神の国の王であり私たちは神の民です。

<祭司長であるイエス様>

1. イエス様は罪のないご自身の体をいけにえとして捧げ完全で永遠な贖いを一度で成されました。

2. イエス様は永遠に存在するメルキセデクの位に等しい大祭司長です。

3. 私たちの大祭司長であるイエス様はいつでも私たちを理解され赦されます。

◎ 私の人生のマナ

<隣の人にあいさつ>

1. イエス様は神の国を完成されました。

2. イエス様は神の国の王です。

3.　イエス様に頼って礼拝をしましょう。

 <祈り>

1. イエス様を私たちの心と私たちが属した共同体に迎え入れることで神の国を成すように祈りましょう。

2. 神の国の王であるイエス様が再び来られることを備える人生を生きるように祈りましょう。

3. どのような状況にあろうともイエス様を頼り、神様の御座の前に進み出るように祈りましょう。

<とりなしの祈り>となりの人と祈りの課題を分かち合い共に祈りましょう。